

## 令和5年度 第2回美術館運営協議会会議録

### 1 日時

令和6年2月9日(金) 午後2時 00分～午後3時 25 分

### 2 開催場所

豊田市美術館講堂

### 3 出席者

〔委員〕

正村 美里、高橋 綾子、鈴木 早紀恵、近藤 かおる、宮崎 健司、加納 里美、木下 翔、  
茂木 明子（以上8名）  
欠席：吉留 亜弥、伊藤 一廣

〔事務局〕

高橋 秀治、田境 志保、塚田 恵理子、鈴木 俊晴、成瀬 美幸、松田 吉範、大柳 良輔（以  
上7名）

### 4 会議の経過

会長によるあいさつ、出席委員の報告（8名）を確認し、本会議が成立することを宣言し  
た。議事録署名人として、会長の他に高橋委員を指名した。傍聴人1名。

### 5 会議内容

事務局

（1）展覧会の実績報告について

- ・資料1により、企画展「吹けば風」の実績について説明
- ・資料2により、常設特別展「杵と波」の実績について説明
- ・資料3により、企画展「フランク・ロイド・ライト 世界を結ぶ建築」（以下、「ライト」展）の  
実績について説明
- ・資料4により、その他の取組事項について説明

会長

ただいまの報告についてご意見やご質問をお聞きしたい。

委員

教職員向けの夏季研修会を昨年7月に実施し、「吹けば風」展と合わせ非常に刺激になっ  
た。来年度の展覧会等も楽しみにしている。美術館のさらなる魅力向上策として、子ども向  
けの体験コーナー等の催し物の実施を期待している。

委員

教職員向けの研修会について、その結果がどのようにフィードバックされているか。

委員

この研修には100人近い教職員が参加した。研修プログラムの中は鈴木学芸員とともに作成したものがあり、美術館で実施する3つのうち1つのプログラムを昨年7月に実施した。教職員が子どもの目線に立ち、そのまま授業で活用できるような内容にした。また、漆の魅力を再発見できたという意見もあった。豊田市の子どもたちには、漆のような伝統工芸を応援する意味でも、日本的な美を感じてほしいと思っている。

委員

参加した教職員は美術系科目の専任か。

委員

美術系以外の科目を担当している教職員も参加した。美術系専任の担当者は約半数である。

委員

参加した教職員は授業で研修内容を活かす又は子ども達を美術館へ来館するよう促す、という成果があったと理解して良いか。

委員

その通り。展覧会のアンケートにも「子どもが美術館に来館したいと言っている」という意見もあった。子どもが来館すれば親も来館することが多く、効果はあると思う。

委員

研修会への参加は教職員の立候補によるものか。

委員

豊田市内の全教職員に募集をかけ、参加希望者に参加してもらった。コロナ禍では人数制限で参加できなかった職員が今年は参加できた例もあった。

委員

学校の先生が自ら美術館で鑑賞体験等をする事で、学びも増えると思う。

委員

今年度、どの展覧会も楽しく心地よく鑑賞できた。「吹けば風」展のポスターは本物の布がついた仕様になっており、インパクトがあった。交流館に訪れた方からポスターについて質問されることもあり、視覚的な効果は大きかったと思う。「杵と波」展の出品作家は1960-70年代当時の「若手作家」であり、「吹けば風」展と上手く対比させているが、この手法は豊田市美

術館独自のものか、他館でも行っているものか知りたい。

また、どの展示についても作家の思いはもちろんのこと、市民に寄りそう丁寧な運営を感じる。審議会の委員募集要項に記載の「おしゃれでカッコいい、そして、親切で親しみやすい美術館」を今後も継続してほしい。

## 事務局

メインの企画展と常設展等を対比させる手法は、コレクションを持っている美術館であれば大なり小なり実施していると思う。補足すると、「吹けば風」展が30歳代の若手作家を取り上げ、最先端の表現をみせるチャレンジ的なものだったので、「杵と波」展では過去の前衛的な表現を合わせて展示することで歴史的な奥行き、空間的な広がりをつくり美術館としての足腰をしっかり支えたいと考えた。

## 委員

「吹けば風」展の来館者が20,000人弱、「ライト」展では35,000人を超えたということで、いずれも目標数に近い数字だが、広報実績件数では両者の展覧会に2倍の開きがある。広報を多く実施することで来館者の増加につながると思うので、情報発信をしてほしい。

また、PTAの立場としては各学校に緊急連絡網やメール配信があるので、そういった配信網も美術館広報のために活用してほしい。

## 委員

「吹けば風」展と「杵と波」展については、どちらがメインの企画展かという区別はなく、2つの企画展が平行に存在している印象があり、とても興味深かった。公立の美術館が30歳代の若手作家のみの企画展示を行うことは、非常にチャレンジングである。年配の観覧者等は作品についての理解が難しい感想を持つかもしれないが、今回の企画は作品の選び方が良く、関川航平氏が展示室の坂を上るパフォーマンスがあるかと思うと、川角岳大氏の作品のように美術館の空間と丁寧に呼応している平面作品があり、好印象を持った。豊田市美術館は展示室の活用方法が柔軟であり、それが功を奏したと思う。同展は夏休み期間にかかるものだが、昔から豊田市美術館の夏休み中の企画は大胆でチャームングなものが多かったと感じる。開館当初の現代美術が中心の展示を継承するという意味ではないが、今後、若者や子ども達への伝え方を練っていければいいと思う。

託児サービスについては需要が多いとのことだが、無理のない範囲で定例化するのか、システム化するのか議論してほしい。他館でベビーカートツアーを実施している事例があるが、休館中に実施している。子どもを連れた親は子どもに芸術鑑賞をしてほしいという気持ちと、自分自身が鑑賞したいという気持ちの両方がある。子ども向けの企画と、共働きで子育てをしている忙しい方向けの企画の提供を考えてほしい。

「ライト」展については、来館者が多く混雑しており、図録を読めば良いかなと長くは展示室に居られなかったが、同時開催の「歿後 20 年 若林奮」展は所蔵品の多さなどに感銘を受け、1つの企画展を鑑賞したような満足度があった。

#### 委員

豊田参合館で「吹けば風」展の作品が展示されており、参合館の来館者から質問を受けることがあった。「ライト」展の会期中は美術館の庭園で「お庭でマルシェ」を開催したが、展覧会とマルシェの両方を楽しめた方がいて良かったと思う。先進的な 30 歳代の作家を企画展で紹介したり、自分が住むまちの美術館が他市の美術館に比べてチャレンジングな取組をしていることを誇らしいと感じる。

#### 委員

良かったこととしては、託児サービスの実験的な施行、ナイトミュージアムの開催で新たな需要を呼び起こせたのではと感じた。企画展である「吹けば風」展より常設特別展の「杵と波」展の観覧者数が多く、企画展を見ずに常設特別展だけ観て帰った人もいたのではと感じてしまった。目標観覧者数の算出方法について教えてほしい。

#### 事務局

巡回展に関しては、それぞれの館で予想観覧者数を出し、その数字を持ち寄って算出している。「吹けば風」展の目標観覧者数 20,000 人という数字は現代美術の展覧会としては強気な数に思われるが、当館で企画する現代美術の展覧会には固定のファンが一定数おり、そのような地域性も考慮している。さらに、観覧料収入や予算も考慮に入れている。

#### 委員

「ライト」展以外は目標観覧者数を下回っており、「吹けば風」展では無料観覧日が2日設定されているが、人件費等を考慮し採算が取れるような数を設定していると思うが、全体を通して収支が赤字になっているのではないか。

#### 事務局

収支については、観覧料収入だけではなく施設の使用料、刊行物収入など様々な収入があり、差引するとほぼ予定通りの額となっている。観覧料収入に限って申し上げると、展覧会ごとに個性があり予想より観覧者数が多かった又は少なかったということはあるが、毎年の当館の収支のバランスは取れているものと判断している。

#### 委員

館長と学芸員による連続美術講座について、定員に対し参加者が少ないが、どのように広報しているか、現地のニーズをどのように把握しているか、開催日時が適正だったか、参加者のアンケート結果について教えてほしい。

#### 事務局

この企画は今年度再開したもので、数年前に T-FACE で実施した実績がある。今年度の講座については広報が遅くなったことが要因として考えられる。現地のニーズについては、地域にゆかりのある作家を紹介するなど毎回その場に合わせたテーマを考える努力をしている。開催日時については、美術館が閉館している日にあえて実施するなどし、反応を見ている。ア

ンケートについては直近の第7回で実施した。

#### 事務局

連続美術講座は館長の発案でもあるが、美術館の学芸員が顔見せする意味もある。参加人数だけ見ると寂しい回もあるが、小原地区など美術館から離れた地域で現代美術について開催した際の参加者からは好評だったことがあり、数字に表れない効果があると考えている。また、講座の内容が展覧会の内容に付随した内容になりがちだが、展覧会から離れたテーマも考えているので、ご意見をいただければと思っている。

#### 委員

参加者数に関しては様々な議論があり、展覧会の観覧者数が目標を下回っているのに連続美術講座に職員や時間を割くのかという議論もあると思う。個人的にこの取組は続けてほしいと思っているが、開催日時について、豊田市中心図書館で行われた講座は午後6時から始まっており、多くの人が食事やその準備の時間と重なっており参加しにくかったのではないかと。また、広報の仕方についてはウェブサイトタイトルだけ出ていて内容が載っていないので内容も載せると良いと感じるし、地域にゆかりのある作家と合わせて美術館のコレクションを紹介するなどしても良いと思う。講座は単発で参加者を募る形式だが、全ての講座に参加すると修了証を渡すなどしても良いと思う。市内の各地域を巡回することは町おこしの意味合いもあるのではないかと。そういった諸々のことを考慮し企画すると有意義な講座になるのでは。

#### 事務局

展覧会の観覧者数が目標を下回っているのに館外活動をするのはどうか、というご意見について、美術館は展覧会だけに焦点を当てすぎるのは良くないと考えており、集客人数や収支に見えない価値を生み出すことは本質的に必要なことだと考えている。

#### 会長

会長としてではなく委員として意見を述べるが、観覧者数は十分目標を達成していると考えられると思う。むしろ目標数が実際の観覧者数の近似値となっている点は驚きで、目標設定の方法を教えてほしいほど。数十人、数百人レベルの僅差で目標に達していないだけに、他の事業に取組むか否かの議論をするのは視点がずれていると思う。

#### 委員

目標の立て方が曖昧な部分があり、目標を立てた以上は説明責任が問われると思う。

#### 委員

託児サービスがありがたかった。妊娠中や育児中など美術館に行きたくても行けない時、一時託児がないので足が遠のいたり申し訳ない気持ちで授乳室を使用したりしていた。託児サービスを広報することで、豊田市は子育て層に優しいまちであることをPRできると思う。

「ライト」展のアンケートで、子連れの来館者が多く、また泣いている子どもがおりうるさい

ので、スタッフから注意してほしい旨の意見があった。美術館で静かに鑑賞したい気持ちは理解できるが、一方で子どもに芸術に触れてほしい気持ちも理解できる。子連れ家族の鑑賞を優先し、気兼ねなく来館できる時間帯を設ける取組を検討してほしい。

#### 事務局

子連れ家族が心地よく鑑賞できる取組は、3月中に実施する予定で検討している。実施が決定したら情報発信するので、ぜひ利用してほしい。

#### 委員

全国的に見て外国人在住者の数が多い豊田市において、美術館に敷居の高さを感じる方が多い。外国人が心地よく鑑賞できる取組も合わせて検討してほしい。

「ライト」展のアンケートで、展示室に座れる椅子がほしい旨の意見があった。身体が不自由な方も来館するので、椅子や休憩場所があると助かる。

「吹けば風」展のアンケートで、鑑賞した作品に影響され「家に帰ったら自分も作品を作りたい」という意見があり、芸術は鑑賞するだけではなく自分もアーティストになれるんだという気持ちを持てる点で、素敵だなと思った。先日、豊田市民文化会館でジャンボクレヨンで壁に絵を描くイベントに参加し、とても楽しかった。実施にあたり様々なハードルがあると思うが、同じような取組を検討してほしい。

連続美術講座については、公立美術館でこのような実験的な取組を次々に行っているのはすごいことだと思う。どんな人が美術館の運営に携わっているかを知ること、さらに美術館のファンになると思う。「吹けば風」展のアンケートでも、第1回の館長による講座が分かりやすく、再度講演会を希望する声があった。また、作品ガイドボランティアが放課後児童クラブを訪問したことがきっかけで、美術館のガイドツアーに参加したという意見もあり、業務が忙しい中でこのような取組を行ってくれることに感謝する。今後もぜひ続けてほしい。

アンケートの集計数が観覧者数に対し少ないと思う。せっかく多くの方が来館しているので、豊田市コンサートホールのようにコンサート終了後の動線上にアンケート用 QR コードを設置するなど、紙媒体以外の方法も検討してほしい。

#### 事務局

先ほど他の委員から、10年ほど前の子ども向けの企画展の話が出たが、当館は開館以来、美術館学習という取組があり、豊田市内の小中学生が毎年度1学年ずつ、年間約8,000人来館していた。これは全国的にも画期的な取組だったが、リーマンショックで送迎用のバス代が捻出できなくなり、途絶えてしまった。この逆境の中、美術館の努力によって子ども達に来館してもらう目的で企画したという経緯がある。また、ここ数年は来年度博物館の開館にむけて学校との連携を再構築してきた。今後3年ほどは博物館と共に子ども達を受入れる事業に注力することになると考えている。

#### 事務局

##### (2)次年度開催の展覧会について

・資料5により、次年度開催の展覧会について説明

## 会長

ただいまの報告及び全体をとおしてご意見やご質問をお聞きしたい。

## 委員

来年度の展覧会を楽しみにしている。特にエッシャー展については7月の教職員向け研修会と時期が重なり、また彼の作品は図工の資料集にも載っており、作品を模したものを作る授業もあるため、参加希望者が殺到すると思う。先日、博物館の見学をした際に、博物館開館後は美術館の北側から入館する方が増えるのではないかと感じた。博物館の見学後に美術館の敷地に入り、最初に鑑賞する作品は高橋節郎の作品になると思うので、漆作品が大事になるのではないかと。子ども達にとっても楽しい企画がたくさん予定されている美術館に、今後も期待したい。

## 委員

展覧会の内容はもちろんのこと、心地良い空間であり続けてほしい。

## 委員

先ほど事務局から子連れ家庭のための取組の話があったが、例えば映画館などで順番待ちをする際、子連れだと30分くらいが限界だと思うので、時間帯の設定も検討してほしい。また、学校との連携についてPTA連絡協議会でも話題に出し検討してみたい。次年度展覧会についてはタイトルを見るだけで内容が分かる企画展名称にしてほしい。

## 委員

来年度は主軸となる展覧会に常設展等が重なっていくことで、これまでの蓄積と実績に幅が出てくると思う。連続美術講座について、有料の文化講座等が他にある中で豊田市民が館長や学芸員から深い内容の講座を聞けることは素晴らしいことだが、地域と深い関係のテーマ選定をすることで深い知識を持った方と出会える可能性もあり、市民にサービスを提供するだけでなく、協働する研究講座のようなものにするとウィンウィンの関係になると思う。そういった取組は従来、博物館が行ってきたが、今回博物館が隣に開館するので博物館的な手法も取り入れてほしい。

## 委員

幅広い内容の展覧会を楽しみにしている。子ども向けの取組をさらに推進してほしい。

## 委員

イベントのアーカイブ映像は今後、美術館の資産として残してほしい。再生時間が長い場合は短く編集し広報に活用するなど検討してほしい。休館期間中にも広報を実施し、人々のニーズを満たすような取組を行ってほしい。

## 委員

来年度の企画展を楽しみにしている。

会長

地域や学校との連携など多方面から様々な意見が出た。アンケートでも非常に良い意見が出ており、美術館として色々な面で細やかなケアを実施していることが分かった。観覧者数については、現代美術で20,000人近い集客があること、また予想観覧者数が実数の近似値を出されている点が驚きである。コロナ、インフルエンザ、地震などが発生すると人々の心は一気に沈んでしまい、観覧者数にも影響が出るものだが、豊田市美術館においては他館とは違う計算式のようなものがあると感じた。また、出席委員の意見も運営面に刺激になり生かされていると思う。

以上で協議を終了する。

会議録署名者

会長 正村 美里 ⑩

委員 高橋 綾子 ⑩